# 使命



犬山・寂光院山主

松平實胤

**何のために生まれてきたのか**

これは人間に生まれた者の永遠のテーマでしょう。解答なんてありません。あればすべてが正解で、これだけが正解だなんていうことはありえません。

誰でも願って生まれてきたわけではありません。気がついてみたら生まれていたのです。誕生は自分の意志と努力では到底及ばないところで決定されます。私は男に生まれたいと願って生まれてきたのではありません。気がついてみたら男だったというわけです。日がらが良いからこの日に生まれたい、と願ったわけではありません。気がついてみたらその日が私の誕生日なんだと納得させられただけなんです。私も早六十四にもなりました。高齢者といわれる年になってもなおこの体（てい）たらくです。しかし、私はそうですが、きっと父も母も、おじい様もおばあ様も、とにかく私の命つながるご先祖のお一人お一人皆そうだったんじゃないかと、不尊を承知で思うのです。この世に生まれてきた人はすべて例外なく、気がついてみたら生まれていたということでしょう。

となれば、何のために生まれてきたか、あなたの使命はなんて問われたら面喰ってしまいます（どうも社会的役割、ミッションのつもりで使命を尋ねる人が多すぎます）。

とりあえず「私」の解答は、「そんなことわかるはずがない」です。

しかし、私は幸いにも仏教徒です。釈尊のお智慧をお借りすれば「知足」、無条件の感謝でしょう。「とにかく生まれてきてよかった」としか言いようがない、いや、縁あって戴いた命ですから、最後のその時その一瞬まで精一杯生きる、これが私たち生を得たものの務めではないかと思います。もし使命を問うなら、使命は「命を使う、生きること」、今この世で生きている人はすべて、立派に使命を果たしておいでになる、例外はありません。

**何のために生きるのか**

これも私の解答はせいぜい「そんなことわからない」です。とにかく六十四まで生きてきてこの体たらしくです。なんと情けないと放逸に過ぎた人生を後悔することしきりです。

しかし、ここは仏教徒らしく考えてみたいと思います。（あくまでも定年といわれる年を迎えた者の解答ですから、家族に対する責任、社会に対する責任、等々を具体的に抱えてみえる方はまずその責任を優先してください）

誰でも裸で生まれて、裸で死んでいきます。地位・名誉・財産などすべて、死の旅路には持っていけません。持っていっても灰になるだけです。人生の目的は地位、名誉、財産ではありません。持っていけるとしたら、心というか、魂というか、それだけでしょう。どれほど魂を輝かせるか、魂を浄化できるかが問われるところでしょう。それには日常生活をどのように送ったらいいのか、、、（以下次号）